

平成 30 年度 第 2 回瑞浪市学校給食センター運営委員会 会議録

開催日時：平成 31 年 2 月 21 日 13：00～

開催場所：瑞浪市学校給食センター

【会議録】

会議の成立

委員総数 9 名、出席者 8 名 運営委員会規則第 6 条第 2 項の規定により、会議は成立。

出席委員：豊田桃三、佐々木貴浩、ヒッチングス久美子、藤原あづさ、平林道博、藤井雅明、
伊藤慶和、奥村勝彦

欠席委員：山田秀樹、

会議の公開：傍聴者なし

次第に従い運営委員会進行

1 委員長あいさつ

2 議事

第 1 号議案「瑞浪市学校給食センター設置条例の一部を改正する条例の制定について」

事務局：「瑞浪市学校給食センター設置条例の一部を改正する条例の制定について」を資料の 2
ページをもって説明

・質疑

委員：いままで、「間違えたまま、今に至った。」ということですか。

事務局：今回、この条例を、事務局で見直しを行っていたところ、過去に直しておかなければならなかった条項がなおっていませんでしたので、今回、直すこととしました。

・採決

委員から「異議なし。」の発言があり、「瑞浪市学校給食センター設置条例の一部を改正する
条例の制定について」は、承認

第 2 号議案「学校給食食材納入業者の認定について」

事務局：「学校給食食材納入業者の認定について」説明します。

この学校給食食材納入業者一覧表は、3 年に一度の市が実施する「瑞浪市競争入札参加資格審査申請」に基づき、22 番の「有限会社舟波商店」を除き、昨年度の第 2 回運営委員会で認定された業者です。

なお、22 番の「有限会社舟波商店」は、昨年度の納入業者認定後に、市の入札参加資格を得ています。引き続き、昨年度から認定されている業者及び、22 番の「有限会社舟波商店」もあわせて、31 年度学校給食食材納入業者の認定をお願いします。

以上第 2 号議案の説明とします。

・質疑

委員：舟波商店は、名古屋の業者だが、なにか特徴みたいなものがありますか。わざわざ瑞浪に卸す理由はありますか。

事務局：特徴はないですが、名古屋の業者は、生産量が多い愛知県から仕入れ、地理的にも近い瑞浪に卸しています。

委員：この表に納入する品物がわかるようにしていただきたい。

事務局：次回から、主に納入する食材を記載するようにします。

委員：(豚コレラの影響で)今回、豚肉関係の仕入れでなにか困ることはないか。

事務局：豚肉の納入業者は、市内の業者です。生産地は、瑞浪ポーノポークを除いて、九州、

主に鹿児島産です。瑞浪ポーノポークは、6 か月間ぐらい仕入れることはできないが、同じ種類の「ポーノポークぎふ」を仕入れることができます。

・採決

委員から「異議なし。」の発言があり、「学校給食食材納入業者の認定について」は、承認

3 協議事項

(1) 救給カレーについて

事務局：「救給カレーについて」を資料の4ページをもって説明

委員：救給カレー以外のものはあるか

事務局：コーンスープなどあるが、主食のかわりとなるものは、今のところ救給カレーだけであると聞いています。

委員：消費期限が2年を超えるようなものであっても、年度当初に購入したものは、その年度の末に使うこととなるか。

事務局：賞味期限は3年となっていますが、委員のご意見のとおり、年度当初購入、年度末に使い切るということを想定しています。

委員：単価はいくらですか。

事務局：中学生用は、310円、小学生用は240円です。

委員：購入費は、保護者から徴収しますか。

事務局：そうです。4月分の給食費と合わせて徴収します。

委員：どのような時に使うこととなるか。

事務局：給食を予定していたが、自然災害で給食が配れなくなった時、給食センターの事故で給食が作れなくなった時、または、防災教育の中での使用を考えています。

委員：ストックする場所は、学校ですか。

事務局：学校です。

委員：簡易給食との関係はどうなりますか。

事務局：簡易給食は、過去にノロウイルスの発生した時に実施したことがあります。この時は、簡易給食納入業者が通常に納入できる状態でしたので実施しました。センターの給食や簡易給食が利用できない場合に、救給カレーの利用となります。

委員：費用の徴収方法はセンターにお任せするとしますが、救給カレーをその年度に使うようなことがなかった場合、どのような時に使用するか考える必要があると思います。防災授業・教育の中で、通常の給食の中で、利用したらどうかと考えますが、いかがですか。

委員：使用する時期については、いかがですが。

事務局：防災教育や非常時の食料として子どもたちへの提供、年度末に家庭に持ち帰り、家族で試食をすること考えています。防災教育の中で提供することは、委員さんのご指摘通り、いつがいいか考えどころです。9月にすると、その直後に災害あった場合に困ったこととなります。3月は、中学生の卒業式で、全員が試食することができないことが想定されます。2月か3月初旬の給食の献立の中に入れて、救給カレーとプラスα、牛乳など、となると思います。

委員：うちへ持ち帰るのは、いかがなものかと考えます。できれば、給食の中で、使っていたきたいと思います。

事務局：わかりました。給食の献立の中での使用を考えたいと思います。

委員：保護者への説明は、給食が提供できないやむを得ない事情や災害などが発生した時や、防災教育の一環として利用するために、購入することの方が良いと思います。

事務局：それでは、保護者への購入についての説明は、本来の使用方法和防災教育の一つとして、これを購入することとし、購入は保護者負担で年度当初としてよいか。

委員：異議なし。

(2) 平成 31 年度学校給食費保護者負担分について

事務局：「平成 31 年度学校給食費保護者負担分について」を資料の 5 ページをもって説明

委員：食料品は、軽減税率の対象となっているので、税率は 8% のままということですか。

事務局：そのとおりです。

委員：説明の中であった、価格の検討期間は、どのくらいでしょうか。

事務局：1 年から 2 年程度を考えております。この間に給食食材の価格が上昇すれば、この委員会で、また協議をしていただきたいと思います。

委員：センターでの燃料費などはいかがですか、給食費に影響はないですか。

事務局：センターの燃料費などの運営費は、市の予算で賄われていますので給食費に影響はございません。給食費は、給食食材費のみをいただいております。

委員：瑞浪の給食費は、県下でも高いところに位置していますが、質も良く美味しいといわれています。値段を気にして、質を落とすことがないようにしていただきたいと思います。

事務局：承知しました。それでは、来年度は、消費税の引き上げに伴う給食費の改定をしないこととし、食材価格の動向をみながら、改定については、その時に検討することとしてよろしいか。

委員：異議なし。

(3) 平成 31 年度給食センターの方針と重点について

(4) 平成 31 年度給食内容・給食指導及び食に関する指導の方針について

事務局：(3)と(4)は、関連しているので、資料により一括説明

委員：重点Ⅱ施策 2 について質問いたします。給食調理業務等を民間に委託していますが、どうですか。市が行っていた時と比べて、いかがですか。

事務局：調理業務等は、平成 27 年度から実施しています。最初の 3 年間はシダックス、本年度からはハーベストネクストに委託しています。この間、大きな事故、問題は起こっていません。また、調理業務等が原因による給食の提供が中止となることも起こってなく、概ね順調に進んでいます。

委員：従業員の方々はどうでしょうか。

事務局：シダックスからハーベストネクストに変わった時も、従業員をそのまま引き継いでいます。また、そのことでセンターとのトラブルもございません。

委員：新年度から瑞陵中、釜戸中、日吉中が瑞浪北中として、一つになりますが、各学校で使っていた給食関係の備品はどうなりますか。

委員(教育委員会事務局長)：各学校の配膳室などで使っていたワゴンなどの備品で、使える物は、北中で使います。また、北中で使う予定のない物は、各学校に照会をかけ、使える物は、使うように心がけて、使えないものは廃棄処分とする予定です。

委員：北中ができることにより、配送などに影響がありますか。

事務局：釜戸地域は、釜戸中学校が減り、そちらへの配送がなくなる分、配送にかかっていた

時間が短縮されると思われます。現在は、日吉小・明世小・北中への配送車のコンテナへの積み込み方などを検討しています。

委員：小・中学校の給食費と量の関係を教えてください。

事務局：小学校は280円、中学校は320円です。量については、小学校と中学校は違います。また、小学校でも、低学年と高学年は違います。

委員：瑞浪の小学生の体格は、全国平均と比べ、とても低くなっています。給食が導入された時は、体格が飛躍的に伸びています。たかが給食といっても、ばかにできないのではないかと思っています。低いのは栄養面で足りないのでしょうか。提供量を多くすれば、体格の向上を図れると思いますが、いかかでしょうか。

事務局：給食の提供量についてですが、食の細い子どもがいますので、残渣量から考えれば、低学年はそのまま、高学年は、少し量を多くすることはできると思います。

委員：体格差に違いが出てくるのは、給食費が全国一律であること原因があるのではないのでしょうか。全国一律の給食費が、提供量を多くすることを妨げているのではないのでしょうか。

事務局：給食費は全国一律でなく、各市町村でそれぞれ違います。県内では、東濃地区は県内平均より高く、瑞浪市は恵那市に続いて、県内で2位となっています。その給食費で、国の基準を満たしたカロリー、量については、食の細い子、太い子、これまでの残渣量をから、また、主食、主菜、汁物などの副菜、デザートを考え、美味しい給食を作ることにかけています。

委員（教育長）：瑞浪の給食は、他市からきた教職員の感想で、とても美味しく、色々なことを考えながら作られていると評判です。

委員：牛乳が飲めない子は、代わりに緑茶を提供しているが、カルシウムの摂取が足りているかどうか心配です。

事務局：現在、緑茶を提供している子どもは小・中学校合わせて19人います。センターには、アレルギーに対応する施設がないので、牛乳の代わりに緑茶ということになっています。保護者の方々には、アレルギーにより、提供できない給食に含まれている栄養素を、お知らせすることで、協力をいただいています。

各委員からの意見もなくなりましたので、平成31年度は、(3)と(4)について、提案どおり実施することとしてよろしいか。

委員：異議なし。

4 報告事項

(1) 平成31年度予算見積もり概要について

事務局：「平成31年度予算見積もり概要について」を資料の15ページをもって説明し、2月22日から開催される市議会で決定されることを案内する。

委員からの意見なし。

5 その他

次年度の予定を案内する。